あなたを一人にしない　私たちに相談してください
大阪弁護士会 総合法律相談センター TEL 06-6364-1248

# 会員探訪 第7回 Portraits

## スポーツ選手編

**弁護士というと、とかく、運動音痴が多いのではないかと思いがちですが、そんなことはありません。
一旦やりだすと、とことんという方が多く、その結果、道を究める方が多いというのも事実です。
スポーツに関しても、多分に漏れず、その道を究めんという方がいらっしゃいます。
今回は、そんな方お二人をご紹介します。**

## 中川正義 弁護士 Seigi Nakagawa

**62期　ジャスティス中川法律事務所　日本プロテニス協会認定プロフェッショナル**

### ● テニス事始め

スポーツには大いに関心がありました。テニスを始めたきっかけは小学校の頃に、当時テニスをしていた叔父（母の弟）に手ほどきを受けたことです。当時は（現在も）大の阪神タイガースファンであったため、むしろ野球の方に興味があり、私は少年野球チームに所属していました。父によく甲子園球場にも連れて行ってもらっていました。

### ● サッカー部又はテニス部と柔道部との二足のわらじ

テニスは、学校の部活に力を入れていたわけではなく、テニススクールに通って基本を学びました。

クラブ活動としては、漫画（キャプテン翼）の影響もあって、中学校時代はサッカー部でしたね。

中高一貫教育の中学校（大阪星光学院）で、高校と中学のクラブが交互にグラウンドを使用していましたので、グラウンドを使用できない日は柔道部に参加していました。

諸般の事情から、高校は、淡路島にある柳学園高校に入学しました。高校ではテニス部に入部しました。それなりに練習していましたが、特筆すべきような戦歴はありませんでした。

夏休み等には、実家の奈良に帰省し、地元のテニススクールに通っていました。

高校時代も一時期、柔道部を掛け持ちしており、その時に初段を取得しました。

高校2年生の時に一念発起し、大学受験に専念するためテニス部を退部し、勉強に専念しました。

### ● 阪大法学部時代

大阪大学法学部に現役合格しました。阪大体育会系テニス部に入部しましたが、司法試験を受験しようと思っていたこともあり、直ぐに退部しました。

それでもテニスは続けたいと思っていたので、地元奈良のテニスクラブでコーチのアルバイトを始めました。当時は、まだ人に教えることができるようなレベルではなかったですが、そのテニスクラブでコーチをしている友人の紹介で、アルバイトを始めさせてもらったというのが実情です。

勿論最初から、一人でレッスンを行えるというわけではなく、補助コーチとして、他のコーチレッスンに参加させてもらい、レッスンのノウハウを学びました。しばらくの間研修を積んだ後、単独でレッスンを担当させてもらえるようになりました。

また、そのテニスクラブでは、所属するコーチ（社員コーチ、アルバイトコーチを問わず）の練習会が毎週あり、これに欠かさず参加して技術と体力を磨きました。全日本選手権に出場しているコーチや、現役のインカレ選手等とも一緒に練習が出来るので、今思えばここでかなり鍛えられたと思います。正直、精神的にも体力的にもかなりきつかったですが…。

### ● プロ

日本プロテニス協会は、プロテニスプレーヤーとプロコーチを両輪とする集団です。同協会の認定するプロ資格は、大きく分けて「JPTA（日本プロテニス協会）認定インストラクター」と「JPTA認定プロフェッショナル」とがあり、後者の方が上位の資格になります。

1982年に、日本プロテニス協会が米国プロテニス協会（USPTA）と提携契約を調印したことにより、「JPTA認定プロフェッショナル」以上の資格保有者は、同時に「米国プロテニス協会（USPTA）認定プロフェッショナル」の資格を取得することができるようになりました。つまり、「JPTA認定プロフェッショナル」以上の資格保有者は、米国プロテニス協会（USPTA）にも入会すれば、自動的に「米国プロテニス協会（USPTA）認定プロフェッショナル」の資格がもらえることになっています。

「プロフェッショナル資格」についてさらに敷衍すると、3段階のレベルがあり、プロフェッショナル1が最上位の資格となります。

私が保有している資格は、「JPTA／USPTA認定プロフェッショナル3」です（米国プロテニス協会（USPTA）にも加入しています）。

今後、上位資格の取得を目指す余地があるかと問われますと、認定インストラクター資格から、認定プロフェッショナル資格へ昇格したことで十分満足しており、さら

に上位を目指す技術も体力もないので、そのようなことは考えてはいません。弁護士業に専念する積もりです。

## ● プロテスト

私がプロテストに挑戦したきっかけは、司法試験を受験する中で、人生の新たな可能性をと考え、当時アルバイトでコーチをしていた大阪のテニスクラブで専属社員コーチとして働こうと決心したことによります。専属コーチになるにあたっては、きちんとプロ資格を取って、より良い条件で採用してもらおうと、また職業として生徒にテニスを教える以上は自らも努力をしようと考えたからです。

プロテストは、全国1カ所で年間10回実施されます。2日間かけて審査されますが、ほとんどの受験者は、プロテスト本番の1ヶ月前頃に行われる1泊2日の講習会合宿に参加しています。そこで、元トッププロであるテスターから、直接、プロテスト攻略法やフォームチェックによる技術指導を受けることができるなど、非常に有益な経験をしました。

まずは、インストラクター試験を受験し、合格1年半後にプロフェッショナルへの昇級テストに挑戦しました。いずれも奇跡的に一発合格でした。

## ● 生計

テニスクラブの専属社員コーチとして生計を立てることは現実的には可能ですが、テニスの試合だけで生計を立てることは私には不可能です。テニスの試合だけで生計を立てることが出来るのは、世界ツアーを回っているようなトッププロのみ。

前記のとおり、日本プロテニス協会はテニスプレーヤーとプロコーチを両輪とする集団でありますが、ほとんどの会員はテニスクラブの専属社員コーチとしてクラブから給与をもらって生計を立てていると思います。

プレーヤーとして上位レベルの試合に参戦している会員であっても、多くは所属クラブあるいは所属企業からの給与によって生計を立てているのが実情です。また、試合に勝つという意味では、練習時間を多く取る必要があり、テニスクラブに所属してレッスン業を掛け持つよりも、テニスクラブに所属せず企業に所属して、あるいはテニスクラブに所属してもレッスン業を行わず、自身のテニスの練習に専念出来る環境にある方が良いと思います。

尚、補足ですが、テニスのプロ資格について、資格がなければ賞金のある試合に出ることができないとか、資格がなければコーチ業を行ってはいけないという仕組みにはなっておらず、資格がなくても試合に出ることも出来るし、コーチ業を行うこともできます。

## ● 弁護士業

弁護士を目指したのは、父親が弁護士（中川清孝　24期　大阪弁護士会）であったため、その姿を見て、小学校の頃から漠然となりたいと思っていたからです。

テニスのプロテストに合格した後、司法試験に合格し、弁護士になりました。

## ● 現在

今は、地元のテニススクール（TS奈良テニスクラブ）に週一回、生徒として通いレッスンを受けています。弁護士になってからもテニススクールに通おうと思ったのは、テニスが大好きなので、練習を継続したかったからです。テニススクールであれば、コートもボールも準備されており、かつ練習メニューも組まれており、効率的に練習が出来ると考えました。

「男子トーナメント」というクラスでレッスンを受けています。同クラスの生徒は、各種試合に頻繁に参加している人や、元コーチの方々が中心で、かなりの猛者がそろっています。また、同クラスは生徒の他、同テニススクールのアルバイトコーチも参加して一緒に練習するというスタイルをとっているので、その意味でもレベルは低くないし、やりがいを感じています。

いずれにしても、テニスと仕事の両立と言っても上記の程度ですが、週一回のテニスの時間だけは、どれだけ仕事が忙しくても確保するようにし、またテニスに関わっている時間は全力投球で練習しています。

因みに、父も70歳になった今でも、弁護士業の傍ら剣道の稽古に励んでいることも、私にとって大きな励みになっていると思います。

テニスは、弁護士業として体力的に役立っていると思います（笑）。

（Interviewer：阿部秀一郎）